スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

石川県　加賀市

自 治 体 名 ： 石川県加賀市
担 当 課 名 ： 教育委員会事務局　学校指導課･スポーツ課
電 話 番 号 ： 学校指導課　0761-72-7886･スポーツ課　0761-72-7985

1.自治体の基本情報

スポーツ庁

基本情報

面積	305.87 ㎢
人口	61,686人
公立中学校数	6 校
公立中学校生徒数	1,455 人
部活動数	38部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

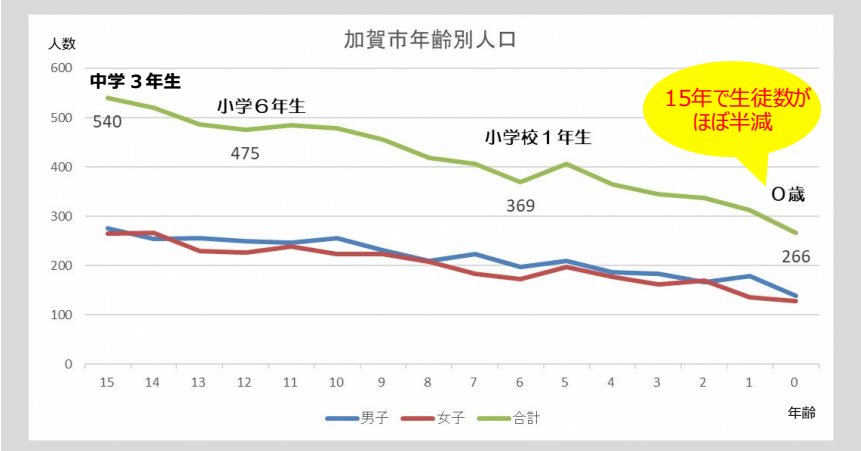
地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

現在、市内中学校の運動部は、学校ごとに部活動数に違いはあるものの競技数としては11競技（男女別）、部活動数としては38部が活動している。少子化に伴い、現在女子ソフトボール部が他の中学校と合同チームによる大会参加を行っている。また、K中のソフトボール部は、新規入部がなく令和7年度から入部停止予定である。さらに、Y中のハンドボール部についても令和7年度から入部停止予定である。

加賀市の出生数から、市内中学校の部活は、今後もさらに縮小、廃部が容易に予想される。

子どもたちのスポーツ・文化環境を持続可能するために、加賀市としては令和4年度から検討会を、令和5年度からは推進委員会を立ち上げ、今後の子どもたちのスポーツ・文化活動のあり方についての議論を重ねてきた。そして、令和6年8月より、新たなスポーツ・文化活動の場として7競技8団体による「地域クラブ」を開設した。「地域クラブ」は、自ら「選択」し、他校の生徒などの「多様な人と関わる」ことができ、活動の「専門性の追求」できることを目的とし、休日に活動をしている。現在では、市内中学1・2年生の3割にあたる250名を超える中学生が参加している。

今後は、生徒・保護者への地域クラブの継続的な周知及び地域クラブ数を増やすことが課題になっている。



出典:加賀市統計書

【課題】

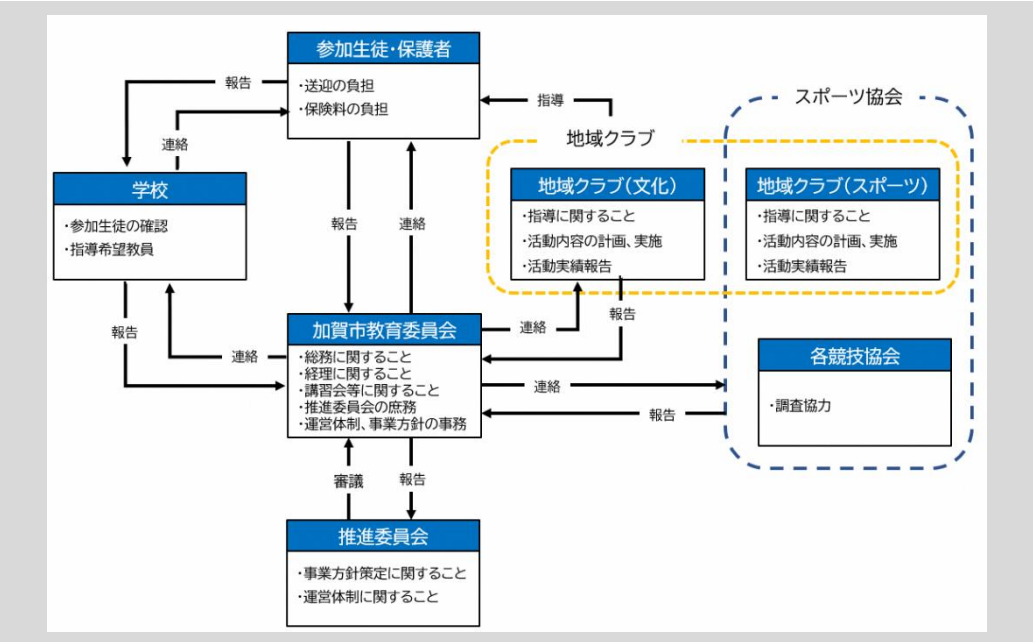
加賀市の場合、児童生徒数の減少傾向が続く。
毎年、生徒数が減少していけば、現行の部活動を維持することが難しくなる。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◉教育委員会

・学校指導課…学校部活動の主幹、学校との調整・連携、学校に関する事項について
・スポーツ課　… 中学生のスポーツ活動の環境整備
・生涯学習課…中学生の文化活動の環境整備
・教育庶務課…会計処理

◉首長部局

・企画課…ふるさと納税の検討
・財政課…予算措置

年間の事業スケジュール

時期	実施事業
令和6年4月	地域クラブ説明体験会
令和6年4月	PTA総会で保護者に説明
令和6年4月	新入生歓迎会で生徒に説明
令和6年5月	第1回各クラブ担当者会議の開催
令和6年6月	地域クラブ指導者講習会
令和6年6月	地域クラブ保護者説明会実施
令和6年7月	第1回活動地域移行推進委員会
令和6年8月	休日の地域クラブ活動開始
令和6年10月	第2回各クラブ担当者会議の開催
令和6年11月	第2回活動地域移行推進委員会
令和6年12月	アンケート実施 対象：中学１.２年 生徒・保護者
令和7年1月	第3回各クラブ担当者会議の開催
令和7年1月	新入生保護者説明会で新入生保護者に説明
令和7年1月	アンケート実施 対象：小学6年生 生徒・保護者
令和7年2月	小学6年生に説明会を実施

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	6 校	実施した地域クラブ総数	7 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		7クラブ（7 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0クラブ
全体の指導者数	7 5人	全体の運営スタッフ数	1 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数	会費	大会参加方法
陸上競技クラブ	加賀市教育委員会	陸上競技	毎週土曜日	9時～12時	1年生29人 2年生36人	8月～3月	中央公園 陸上競技場	22人	-	0円	学校部活動
野球クラブ	加賀市教育委員会	野球	月1回土曜日	9時～12時	1年生20人 2年生19人	8月～3月	片山津 野球場	9人	-	0円	学校部活動
バレーボールクラブ	加賀市教育委員会	バレーボール	毎週土曜日	18時～ 21時	1年生38人 2年生24人	8月～3月	山中中学校 体育館	13人	-	0円	学校部活動
バスケットボールクラブ	加賀市教育委員会	バスケットボール	月1回土曜日	9時～12時	1年生12人 2年生16人	7月～3月	錦城中学校 体育館	3人	-	0円	学校部活動
ソフトテニスクラブ	加賀市教育委員会	ソフトテニス	月3回土曜日	9時～12時	1年生11人 2年生15人	8月～3月	中央公園 テニスコート	11人	-	0円	学校部活動
卓球クラブ	加賀市教育委員会	卓球	月3回土曜日	9時～12時	1年生13人 2年生 7人	8月～3月	錦城中学校 講堂	11人	-	0円	学校部活動
ソフトボールクラブ	加賀市教育委員会	ソフトボール	毎週土曜日	9時～12時	1年生 3人 2年生 4人	8月～3月	東和中学校 グラウンド	6人	-	0円	学校部活動

③その他、体験会やイベント等の開催実績

●R6年4月20日　地域クラブ体験会を開催
●R6年12月　　加賀市内中学校１・２年の生徒，保護者にアンケートを実施

2.実証内容と成果

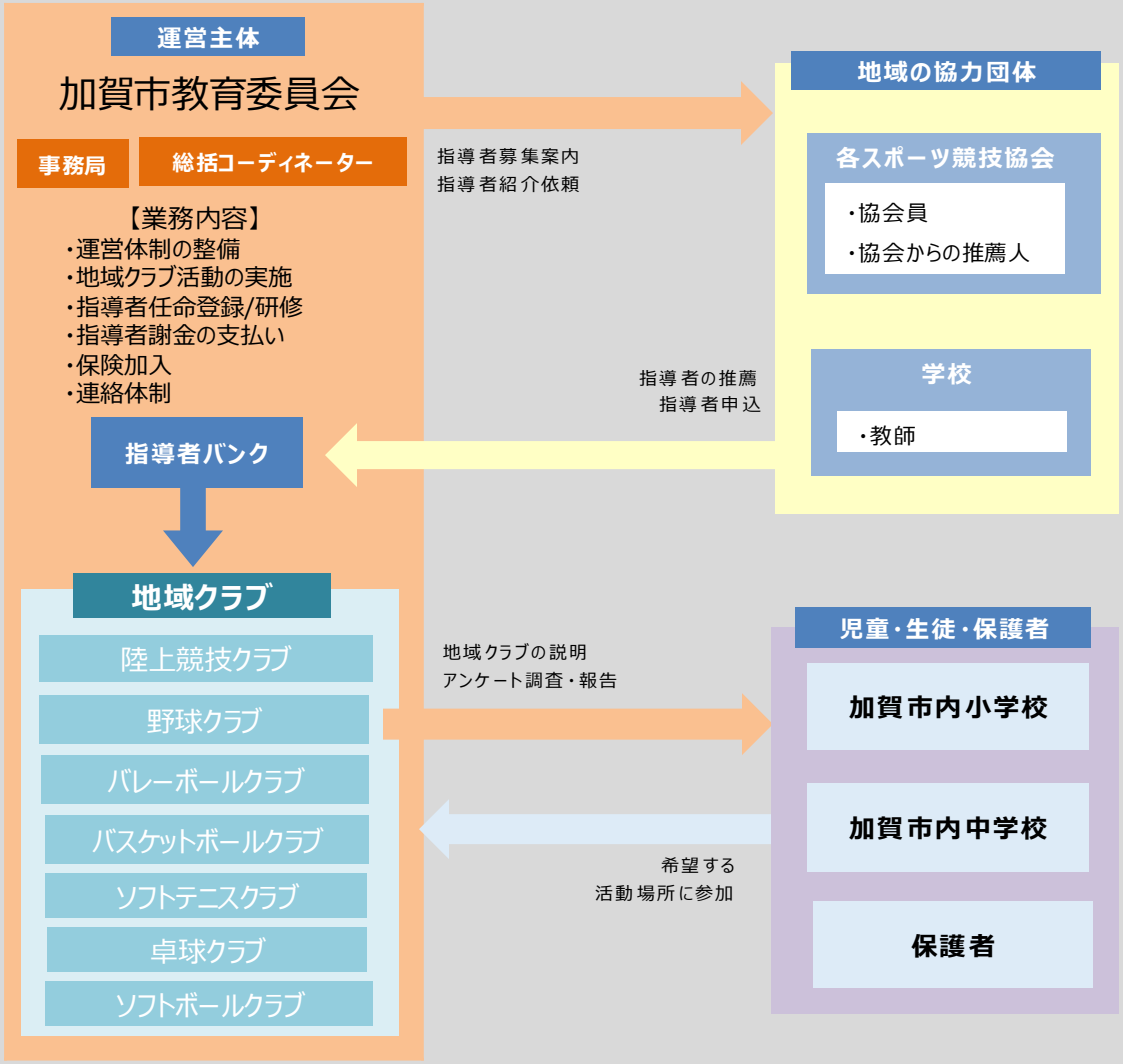
スポーツ庁

主な取組例

●加賀市地域クラブ　活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	陸上競技、野球、バレーボール、バスケットボール、ソフトテニス、卓球、ソフトボール
運営団体名	加賀市教育委員会
期間と日数	陸上競技・バレーボール・ソフトボール ８月 ～ ３月　毎週土曜日 ソフトテニス・卓球 ８月 ～ ３月　月３回程度 野球・バスケットボール ８月 ～ ３月　月１回程度
指導者の主な属性	各スポーツ競技協会の会員、加賀市内の教職員
活動場所	中央公園陸上競技場 中央公園テニスコート 山中中学校体育館 錦城中学校体育館・講堂 片山津野球場 東和中学校グラウンド
主な移動手段	保護者の送迎
１人あたりの参加会費等（年額）	なし
１人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒１人あたり：800円/年 指導者１人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

①統括コーディネーター1名を配置し、以下の役割を担う。
・学校長、部活動顧問、各競技団体担当者との日常的な連絡・調整
・事業計画策定、クラブ体制づくりへの主体的な関与
②以下の推進体制をとり、部活動地域移行の推進をはかる。
・加賀市部活動推進委員会：学識経験者、スポーツ・文化芸術団体、各競技団体、市PTA連合会、中学校校長会等の代表者で構成
・担当者会議：各クラブ運営担当者を集め、運営方針や今後のクラブ体制について協議
③広報活動
・保護者向け説明：説明会開催、保護者連絡ツールによる情報発信
・自動・生徒向け説明：学校訪問による説明、体験会の実施

取組の成果

①統括コーディネーターは、退職教員であり、市スポーツ協会とも関係が深い人材を配置することによって、スムーズに調整が取れた。
②加賀市部活動推進委員会を３回実施し、事業計画や現状把握、今後の方向性など議論してきた。結果として、地域スポーツ開設にむけて、指導者確保を含めてスムーズに行うことができた。また、担当者会議を定期的に開催することで地域クラブの現状の課題をお互いに確認できたり、積雪時の活動場所の確保など全てのクラブ運営に関わることを話し合うことができた。
③広報活動を保護者向け、生徒向けに繰り返し行うことで、混乱することなく8月に地域クラブを開設することができた。



出典：地域クラブ説明体験会実績報告書

コーディネーターの具体的な動きの実績

学校間と各競技団体の調整だけでなく、保護者、生徒向けに部活動改革を繰り返し説明してきた。また、市スポーツ協会内でも、その進捗状況を報告してきた。さらに推進委員会の開催責任者として、関係団体との連携を行ってきた。地域クラブ開催日には、積極的にクラブを訪問し、活動状況や地域クラブ運営の諸問題（活動場所/消耗品/用具等）の把握に努めてきた。

今後の課題と対応方針

今後のコーディネート業務を担う人材の発掘及び育成を行わなければ、地域クラブ活動が持続可能とならない可能性がある。
また、地域クラブ開設に向けて、繰り返しその広報活動を行い、混乱なくクラブ開設は行えたものの、今後も広報活動は、毎年丁寧に新入生及び新入生保護者を中心に行う必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

○加賀市地域クラブ指導者募集要項を策定し、各競技協会及び加賀市内に勤務する教職員に呼びかけた。

募集対象者
・加賀市各スポーツ競技協会会員
・同協会の推薦者
・加賀市内教職員
（地域クラブの指導に携わりたい方）

登録人数

75名
（男性57名女性18名）

登録者年齢構成

10代	1名
20代	12名
30代	11名
40代	18名
50代	14名
60代以上	19名

登録者属性

令和６年度地域クラブ指導者数一覧

地域クラブ	協会員	教職員	協会員・教職員	協会推薦者	合計	1回必要指導者数
陸上競技クラブ	17		5		22	7
野球クラブ	3	5		1	9	5
バレーボールクラブ	12		1		13	6
バスケットボールクラブ	1		2		3	3
ソフトテニスクラブ	10	1			11	5
卓球クラブ	10			1	11	3
ソフトボールクラブ	6				6	3
合　計	59	6	8	2	75	32

取組の成果

○指導者75名を確保した。
○R6年6月に指導者講習会を実施し、50名が参加した。また、欠席者向けに3回の補講を行い、全指導者の講習を修了した。
○教職員につては、中学校だけではなく、市内小学校の教職員にも募集し、全部で14名の教職員の参加があった。
○約９割以上の指導者が協会員のため、より専門的な指導ができた。R6年12月に実施したアンケートでも、地域クラブに参加して良かった点、満足している点として、「より専門的な指導が受けられることができること」を参加者の59%があげている。



出典：地域クラブ指導者講習会実績書

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

【指導者講習会】

対象：加賀市地域クラブ指導者に申込した人

目的：各地域クラブの指導者として、適切に指導するための研修

内容：講義Ⅰ　部活動地域移行の経緯について
　　講師:統括コーディネーター
　講義Ⅱ　ハラスメント防止と生徒理解について
　　講師:学校指導課長
　講義Ⅲ　学校部活動が果たしてきた役割と、これからの地域クラブに求められること
　　講師:石川県内大学人間科学部スポーツ学科　教授

工夫して点：・講義後に確認テストを実施し、全参加者が8割以上の合格点をとり、理解を深めた。
・欠席者には、曜日時間帯を変え、動画等を活用して３回の補講を行い、全申込者の講習を行うことができた。

指導者研修の参加実績

・開催日：６月７日（日）午前　　参加人数：50人
・開催日：６月１８日（火）夕方　参加人数：　5人（補講）
・開催日：６月２３日（日）午後　参加人数：13人（補講）
・開催日：６月２９日（土）午後　参加人数：　7人（補講）

受講者の声

行政側からの説明で、加賀市の少子化の状況とこれからの部活動の維持することの困難性がわかり、子どもたちのスポーツ環境の確保のためには、地域クラブの必要性が理解できた。

実際に中学生を指導するにあたり、スポーツハラスメントに留意し、アンガーコントロールをしていく必要性を感じた。

講師からは、「学校部活動が果たしてきた役割とこれからの地域クラブに求められること」という演題で講演を聴かせていただいた。これまで部活動が担ってきた役割を歴史的背景を交えながら丁寧に話していただいた。また、今後地域スポーツクラブに求められる地域での役割についても少し理解できた。地域の子どもたちのために、スポーツ環境が持続可能できるように、お手伝いしていきたいと思う。

今後の課題と対応方針

今回は、第１回指導者講習会ということでもあり、子どもたちのスポーツ環境確保のための地域クラブ開設の必要性を学んだ。さらに、スポーツハラスメント防止の重要性やこれまでの部活動の役割など地域クラブ活動として基本的な内容の研修であった。

今後は、クラブ活動の準備運動や整理運動の必要性だったり、競技毎の特性に応じた研修会が想定される。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

①学校と連携して進めていくため、部活動顧問会や中学校校長会で説明してきた。また、市内各中学校PTA総会においても本市の取組及び今後の見通し等の説明を実施した。

②推進委員会事務局には、スポーツ協会事務員も入り、連携した。また、総括コーディネーターが加賀市スポーツ協会理事会にも、定期的に出席し説明を実施した。

③アンケート結果より、移動手段がない生徒の移動手段のため、企画課・教育庶務課と連携して、実証事業を検討した。

取組の成果

①部活動顧問会や中学校校長会に出席し、加賀市部活動改革プランの学校側の理解を進めてきた。
また、市内中学校の生徒・保護者に地域クラブ開設に向け、繰り返し事前周知を行い、地域クラブ募集チラシを配布することで、混乱なく地域クラブを開設できた。

新入生保護者説明会	全６中学校
新入生説明会	全17小学校
PTA総会	全6中学校

②現在、7競技種目の地域スポーツクラブが開設されているが、今後はその種目数を増やし、子どもたちの選択を増やすことを目指している。そのためには、加賀市スポーツ協会の協力が必要となる。スポーツ協会には、推進委員会の事務局の一員を担ってもらうなどして協力体制を築いている。また、総括コーディネーターも積極的にスポーツ協会の各種会議に出席し、発信して理解を深めてきた。

③R7年8月より、休日の部活動が完全移行するにあたり、部活動で使っていたスクールバスの活用を、教育庶務課と協議した。また、スクールバスで対応できないところは、企画課と乗合いタクシーの活用や、公共交通機関の活用などを協議した。結果、R7年8月よりスクールバス等を活用した、実証事業をR7年8月より実施予定となった。

今後の課題と対応方針

子どもたちは、平日は学校部活動、休日は地域クラブとその活動を理解し、使い分ける必要がある。そのためには、学校側の理解が必要である。これまで、校長会や部活動顧問会等で繰り返し説明してきたが、まだまだ理解が足りず、兼職兼業届を出す教職員の割合が全国平均より少ない。また、加賀市スポーツ協会に所属する各スポーツ競技協会やジュニアの指導に携わる関係者との連携及び協力も必要である。「加賀市部活動改革プラン」を様々な場面で周知し、地域住民や加賀市民の方々に協力していただける体制づくりが今後求められる。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

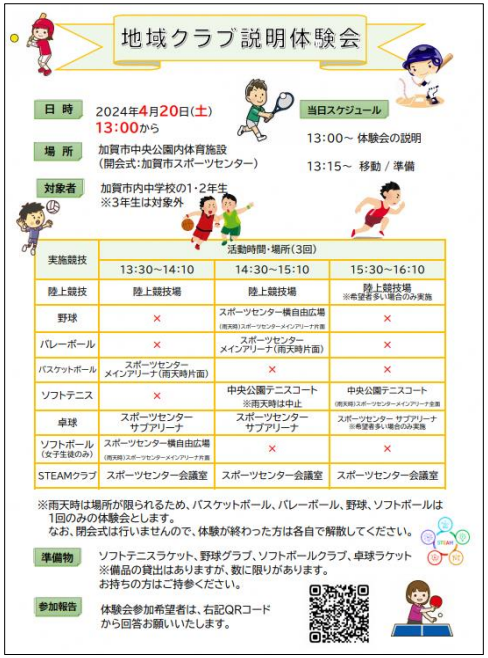
取組内容

●取組項目名　オ：内容の充実①　地域クラブ説明体験会を開催

取組事項

目的：地域クラブ開設に向け、子どもたちが興味ある競技に参加できるように体験会を開催した。また、複数競技を体験できるように、各競技同日開催とした。

チラシ：体験会チラシ



活動の詳細

参加人数	１１６人	指導者数	４０ 人
属性	加賀市内中学校　1・2 年生		
具体的な内容	開会式：地域クラブの説明,体験会の説明 1コマ目：陸上競技,バスケットボール,卓球,ソフトボール 2コマ目：陸上競技,野球,ソフトテニス,卓球 3コマ目：陸上競技,ソフトテニス,卓球		
工夫した点	● 3コマ制にし、複数の競技に参加できるようにした。 ● 会場を加賀市中央公園内体育施設に集約し、移動時間の短縮を図った。 ● 各スポーツ競技協会と連携し、情報を共有してスムーズな流れをつくった。 ● 各競技の用具等は、学校等連携して用意をした。		
ソフトボール参加者の声	以前から、野球やソフトボールに興味があったが、体験する場所がなかったので、体験会に参加できて良かった。当日はソフトボールを手に取った時は緊張したが、先生や先輩が優しく教えてくれたので、徐々にコツをつかめるようになりました。またバットを振ってボールが飛んでいく瞬間の爽快感は格別で、思わず声に出してしまいました。また、キャッチボールをしながら仲間と会話を弾ませるのも楽しかったです。この体験会を通して、ソフトボールの魅力を存分に感じることができました。		
関係者の声	● 3コマにすることによって、複数の競技に参加できることは良かった。 ● 3コマにすることによって、1コマの時間が短すぎて消化不良に感じた。 ● 会場を集約したが、当日雨天の場合は活動が限られるので難しいと思った ● 開催日が1日だったので、参加したくても参加できない生徒もいたと思う。		
運営経費	・卓球トレーニングボール　20個　14,000円 ・ソフトテニスボール　40個　18,000円	・学校等連携して用具等を準備したため、開催費用を抑えることができた。	

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　オ：内容の充実②　加賀市内中学校１・２年　生徒・保護者にアンケート実施

アンケート依頼配布用 A４



アンケート依頼掲示用 A３



取組の成果

R5年度行ったアンケート結果では、中学生保護者の回答率が低く、回答率を上げるために、以下の方法でアンケートを依頼した。

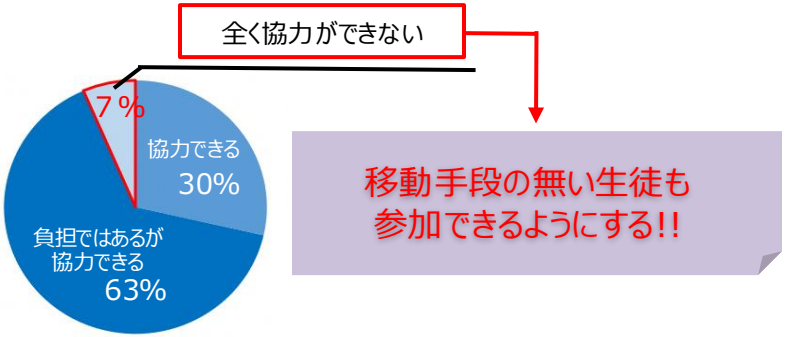
・アンケート依頼文の配布
・アンケート依頼文をコドモン配信
・保護者懇談会の待合室に、アンケートフォーム（QR）の掲示

R5年度回答率10%　→　R6年度回答率45%に上がった

アンケート結果より

Q：週1回（土日のどちらか1日）、地域で地域クラブの活動を行うとしたら、お子さまの送迎に協力できますか。

A：中学生保護の93%の方は、送迎に協力できる。
一方で7%の保護者が、協力できない。



今後の課題と対応方針

Ｒ７年度は活動場所までの送迎は引き続き、保護者の皆様にご協力をお願いするが、アンケート結果を踏まえ、スクールバス等を活用した実証事業を行う予定。

2025年度 実証事業

スクールバス等を活用し、保護者の送迎が難しい家庭を支援する

【利用対象】　移動手段がない生徒（アンケート結果より7%の生徒）
【移動手段】　スクールバス等の活用
【送迎区間】　各中学校～地域クラブ会場（20～30分程度）

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　キ：学校施設の活用等

取組事項

○市スポーツ施設は、年間通して大会等のスケジュールがあり、活動場所は学校施設が中心となる。そのためコーディネーターが、学校を訪問し調整した。また、積雪時は学校施設の体育館利用が重なるため、コーディネーターが校長会会議で説明し、各競技団体担当者と連携して学校等を訪問して、活動場所の確保につとめた。

取組の成果

○総括コーディネーターが、退職教員で、市スポーツ協会理事だったこともあり、学校や各スポーツ競技団体担当者との連携も密となり、活動場所の調整ができた。
また、積雪時は市内中学校の体育館だけでは活動場所が足りず、市内高校の体育館の使用も視野にいれて、市内高校も訪問し、市内高校体育館の使用ができた。

出典:校長会説明資料抜粋

② 積雪時の地域クラブ活動場所について

地域クラブが発足し、4ヶ月あまりが経ちました。そこで、現状の課題等の確認のために、地域クラブ運営担当者会（10月16日）を行いました。その際に、積雪時の部活動冬季割りが設定されることを受け、現状の練習場所を積雪時（雨天時含む）に向けて変更できるかの話し合いが行われました。結果として、陸上競技が山代中に変更を希望し、それにあわせて、ソフトテニス、ソフトボールが、現状の練習場所からの変更しても構わないという返答をいただきました。

	陸上競技クラブ	野球クラブ	バレーボールクラブ	バスケットボールクラブ	ソフトテニスクラブ	卓球クラブ	ソフトボールクラブ
活動日	土曜日午前	土曜日午前	土曜日夕方	土曜日午前	土曜日午前	土曜日午前	土曜日午前
回数	月4回	月1回	月4回	月1回	月4回 （年度当初2回から変更）	月3回 （年度当初2回から変更）	月4回
晴天時、雨天時、積雪時の活動場所は適切か？	晴天時 陸上競技場 雨天時 錦城中体育館から山代中講堂へ変更したい 積雪時　同上	晴天時 片山津市営球場 雨天時 片山津中体育館 積雪時 片山津中体育館	山中中体育館 （2コート） 今後の参加人数によっては、さらにコート数を増やす必要がある。この場合、男女分かれて4コート（3コート）分の活動場所が必要となる。	錦城中体育館	晴天時 中央公園ソフトテニスコート 大会の予定等をあらかじめ把握して優先度を上げてほしい。 雨天時/積雪時 第1希望錦城中 第2希望東和中 第3希望山代中	錦城中学校講堂 卓球台が15台程度使える体育館が必要	東和中のままで良いが、変更は可能である。
協会からの要望	・山代中講堂でには、陸上室内練習で使えるものがそろっている。 ・中長距離の練習に、走れる体育館ギャラリーが必要となる。				コート2面を立てることができるポール、ネットがあればどこの中学校でも可能。 第1土曜日/第3土曜日と第2土曜日/第4土曜日で活動場所が2カ所になっても構わない。		ソフトボール競技を広く知ってもらうために東和中以外の学校施設での練習でも構わない。

今後の課題と対応方針

○今後、地域クラブを増加し、学校体育施設の利用が増えてくるため、施設利用の調整に係る業務を学校単位から一元化できるように検討を進める。

2.実証内容と成果①

スポーツ庁

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

令和6年8月から地域スポーツクラブ（7クラブ）が活動を開始した。生徒・保護者向けの説明会や体験会、保護者連絡ツールを活用した情報発信など、本事業の周知活動を行ったが、参加率は全体の3割程度に留まった。

指導者の資質向上に向けては、講習会の開催や指導者との定期的な運営会議を実施した。

事業推進においては、学校、スポーツ団体、地域団体、保護者など関係者との連携が不可欠であり、統括コーディネーターが中心となり、密な連絡調整、会議運営、広報資料作成などを通じて連携体制の構築に努めた。

児童生徒およびその保護者を対象にアンケートを実施し、事業成果の確認と課題の整理を行い、今後の方向性に活かした。

●成果の評価

項　目	評　価	理　由
部活の移行度	◎	8競技のうち7競技移行完了
関係団体との連携	◎	総括コーディネーター設置により円滑に連携できた。
指導者の質・量	○	クラブ運営できる指導者数は確保できたが、育成の面で課題が残る。
内容の充実	△	参加者の満足度は高いが参加生徒が3割に留まった。
学校施設の活用	○	学校と連携し活動場所の調整をすることができた。

●今後に向けて

・令和6年度に活動を開始した7クラブ（陸上、野球、バレーボール、バスケットボール、ソフトテニス、卓球、ソフトボール）に加え、新たに競技種目拡大を目指す。
・令和6年度は一部の部活動で休日の活動を行ってきたが、令和7年8月から休日の部活動を原則停止にする。
・会場までの移動手段として、実証的にスクールバスを利用した移動手段を検討する。
・指導者研修会の内容を講義形式からワークショップ形式に変更し、指導者の質の向上を目指ざす。

2.実証内容と成果③

スポーツ庁

広報資料

令和5年度の部活動移行推進委員会、スポーツ競技協会とのヒアリング、部活動顧問と競技協会との話し合いを経て、令和６年度８月の地域クラブ開設にむけて、「加賀市部活動改革プラン」を製作し、ホームページ上にアップし、広く市民に改革を周知した。

リーフレットについて、新入生保護者会及び小学校６年生説明会並びにPTA総会で配布し、令和6年度夏以降の地域クラブ開設及びその目的を周知してきた。さらに、６月に行われた地域クラブ保護者説明会においても配布し、広く保護者に周知してきた。

また、「加賀市部活動改革プラン」のオンライン動画を作成し、同じくホームページにアップした。

令和7年1月には、「加賀市部活動改革プラン　ver.２」を製作し、同様に広く市民に周知した。

「加賀市部活動改革プラン」リーフレット





出典:加賀市教育委員会事務局作成

2.実証内容と成果②

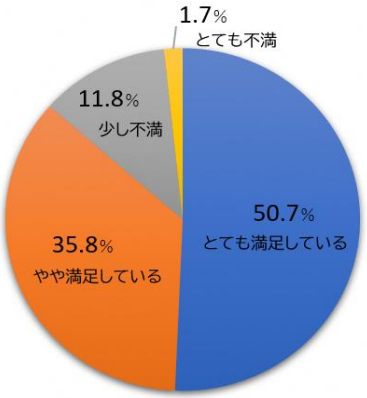
スポーツ庁

アンケート結果・参加者の声

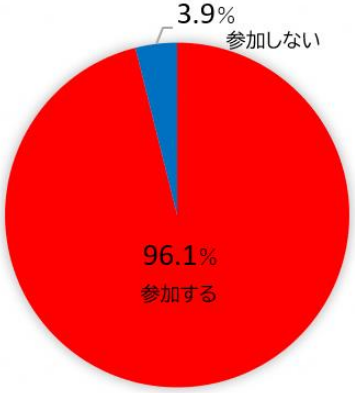
●アンケート結果（R6年12月実施）

※地域クラブ参加者246人中、229人回答

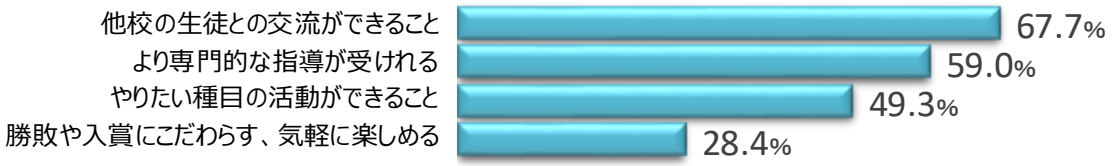
Q.所属している地域クラブの活動に満足していますか?



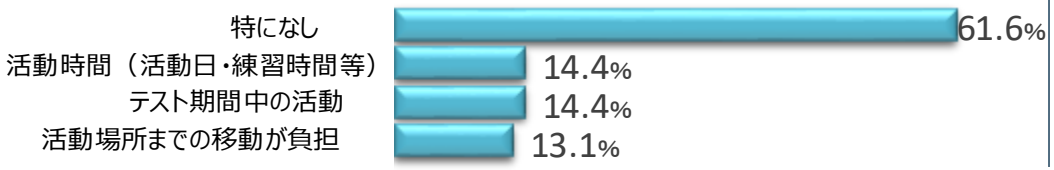
Q.次年度も継続して、地域クラブに参加しますか?



Q.地域クラブに参加して、良いところ、満足しているところを教えてください？（複数回答可）



Q.地域クラブに参加して、悪いところや、不満なところを教えてください（複数回答可）？



●参加者の声

中学１年　女子生徒

知らない他の中学校の人たちと練習するのは、最初は緊張していたけど、練習していくうちにしゃべるようになって、楽しくなりました。

中学１年　男子生徒

学校の部活動ではあまり見本を見せてくれないけど、地域クラブでは、現役の競技者の先生が手本を見せてくれるので、すごく上手になれると思います。

中学２年　保護者

市内の中学生が集まるということもあり、部活動とは雰囲気に娘も最初はとても緊張している様子でした。指導してくださる方もバレーに精通している方ばかりで初めての地域クラブの練習も「初日からハードだった～！」と帰ってきました。その後も毎回帰りの車に乗るなり楽しそうに話してくれるようになりました。地域クラブを通して、他の学校の子ども、学年問わず仲良くなることができて、親としては嬉しいという気持ちが大きです。

指導者

地域の競技力向上になればとお手伝いしています。学校間に人数のバラツキはあるものの、市内の中学生が集まることで孤立する生徒がいないか心配でしたが、男女ともに仲良く活動しています。

2.実証内容と成果④

スポーツ庁

参考資料（活動写真）



【R6年5月　新入生歓迎会にて生徒に地域クラブの説明】



【R6年6月　指導者講習会にて講演会】



【地域クラブ活動風景①】



【地域クラブ活動風景②】

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和5年
推進委員会設置
検討開始

▶

令和6年
受け皿団体や
指導者の選定
拠点校の選定

▶

学校現場との
調整

▶

生徒、保護者へ
の説明

▶

令和6年8月
地域クラブ活動
の開始

▶

令和7年8月
地域クラブ活動
の拡大

ステークホルダー

学校、スポーツ協会、スポーツ競技協会
市長部局、市教委、総括コーディネーター

経過

令和5年度より推進委員会を設置し、教育委員会を運営団体とする新たな地域クラブ体制を令和6年に構築する推進計画を策定した。令和5年度12月までに各スポーツ競技協会から地域クラブを開設するかの最終回答を得た。また、中学校各競技顧問とも話し合いを重ね、地域クラブ開設を県大会終了後とし、当初計画よりも遅らせることになった。その後、「加賀市部活動改革プラン」を作成し、新入生保護者説明会や小学6年生向けの説明会を実施するなどして、令和6年度8月地域クラブ開設を周知した。

開設後は、運営競技団体とコーディネーター、行政等で組織する運営者担当者会を設置し、クラブ活動の現状と課題について話しあった。

実施内容

令和6年度8月より、7競技8団体による休日の地域クラブ活動が始まっている。市内中学１・２年生の3割にあたる252名が現在地域クラブに登録し、活動している。

実施にあたって生じた課題

市内スポーツ施設については、県外含めた関係諸団体が使用しており、中学生の優先的な使用が難しい状況にある。現在、土日に学校部活動を行うことは認められており、学校部活動と学校施設の地域クラブの使用が重ならないように学校への理解を求めてきたが、なかなか理解を示さない学校関係者が一部いた。令和7年度8月以降は、休日の学校部活動が行われなくなるため、その混乱は収束すると思われる。

保護者、子どもたちは、学校、地域クラブのどちらで大会に参加するかということに関心があるが、地域クラブによってその対応がわかれるため、その周知に難しさが残った。また、地域クラブによっては、クラブ員数に対して指導者の不足が課題としてあり、指導者が集まらず急遽開催中止となったクラブもあった。

今後の展開

令和7年8月からは、休日の部活動を行わず、平日部活動、休日地域クラブ活動を実施する予定である。来年度からは中学1年～3年生までの活動となるため、500名程度の参加が見込まれている。また、希望しても地域クラブに移動できない生徒を対象に、スクールバス等の運用を想定している。

3.今後の方向性

スポーツ庁

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

